

月刊島民

中之島

Vol.128 2019 3/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ダンナさんのおかげです。



ナカノシマ大学

「大阪24区物語

②フロントエリア編」

本渡 章

申し込み受付中!

ダンナさんのおかげです。

現在中之島の近代的で美しい姿は、

「ダンナさん」の功績なくしては語れない。

公共に資することを第一に考えた人々や企業が存在が、

魅力と歴史を形づくってきた。

中之島の恩人であるダンナさんたちに敬意を表して、

その素顔をご紹介します。

文／本渡章(作家)

明

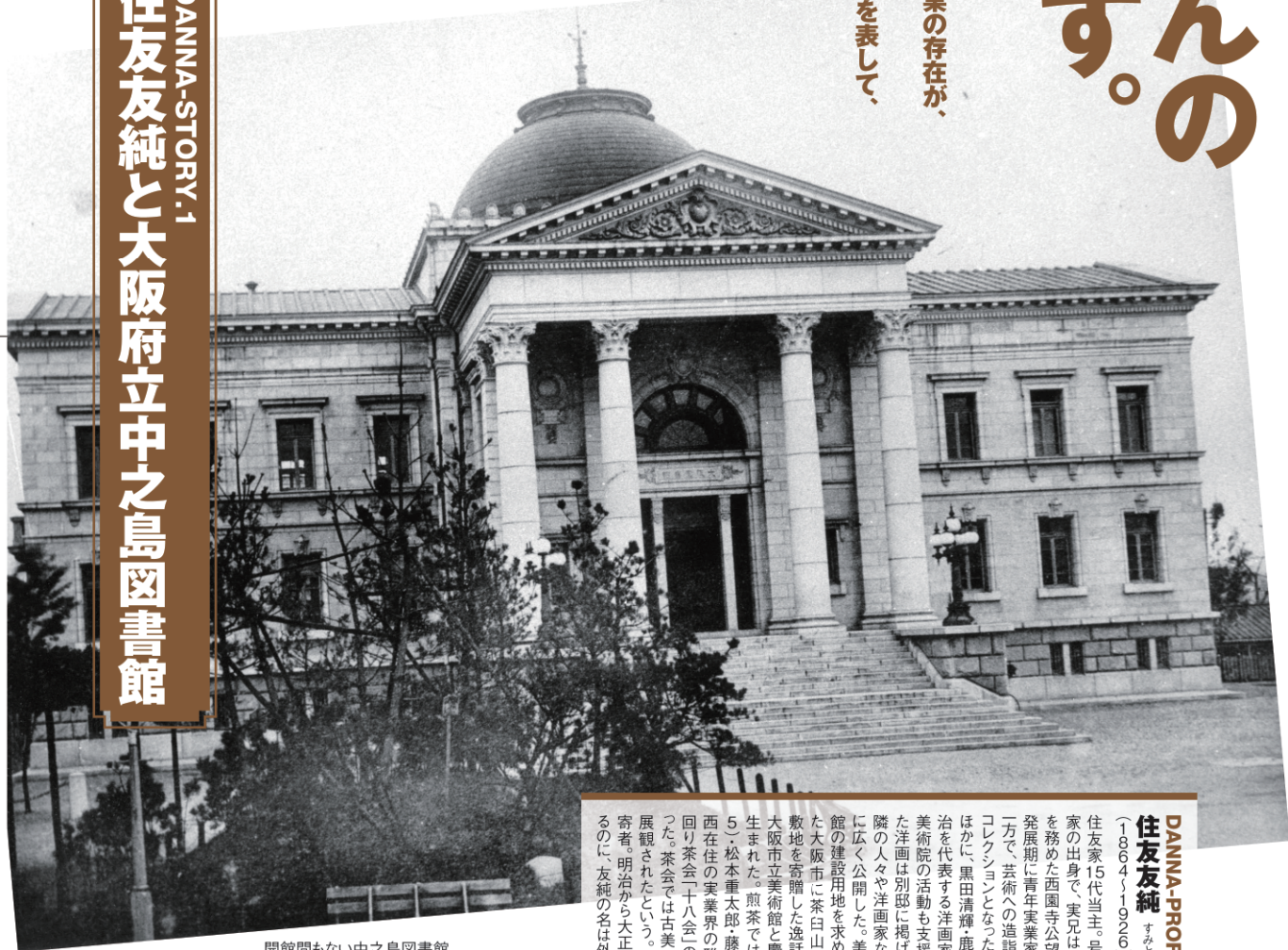
治37年(1904)3月1日

大阪府立中之島図書館が開館したその日、ドーム屋根とコリント式円柱が映える正面玄関に、「大阪図書館」の名前が掲げられた。これが、実は当初の呼び名。ストレートな命名は、大阪の文化・学術の拠点誕生への期待のあらわれだ。館名はその後、大阪府立図書館を経て現在の名称になったが、正面玄関の館名は今も不変。命名の経緯については知る人ぞ知る逸話もあり、ここに紹介したい。「ダンナ」とは何か、一端に触れていただけたらと思う。

大阪図書館は住友家15代・友純ともじによる建築費15万円、図書購入基金5万円の寄付によって生まれた。大阪府知事の菊池侃二かんじが大阪の将来のために新図書館建設計画を掲げるも、思いがけ

ない

DANNA-STORY.1 住友友純と大阪府立中之島図書館



DANNA-PROFILE 住友友純すみともじ (1864-1926)

住友家15代当主。号は春翠。徳大寺家の出身で、実兄は明治政府の首相を務めた西園寺公望。住友の事業の発展期に青年実業家として活躍した。

一方で、芸術への造詣も深く、世界的コレクションとなった中国の青銅器のほかに、黒田清輝・鹿子木猛郎など明治を代表する洋画家を援助し、関西美術院の活動も支援。収集した洋画は別邸に掲げ、近隣の人々や洋画家などに広く公開した。美術館の建設用地を求めていた大阪市に茶臼山の自宅敷地を寄贈した逸話も有名。現在の大阪市立美術館と慶沢園がこうして生まれた。煎茶では、村山龍平(P5)・松本重太郎・藤田伝三郎など関西在住の実業界の雅人18人の持ち回り茶会「十八会」の中心メンバーだった。茶会では古美術品や茶道具が展覧されたという。財界人にして数寄者。明治から大正の大阪文化を語るのに、友純の名は外せない。



開館間もない中之島図書館。両翼の部分はまだない。本を読むより建物を見に来る人が多かったとも。



「ダンナ」の語源とその精神のルーツは？



建設費の寄付や芸術・文化への支援など、公共に資するふるまいを行う人やその心意気を、「ダンナさん」「ダンナ精神」と呼ぶ。その語源は実は仏教用語。サンスクリット語の「ダーナ」

(dana)で、布施や施し恵むといった意味の言葉だ。そこから生活の面影を見てくれる人を指すようにもなり、昔の商家の奉公人が店主のことをそう呼んでいるのは、上方落語やテレビドラマでおなじみの通り。

では、ダンナさんと呼ばれた経済的に富んだ人々が、こぞって社会に貢献しようとしたのはなぜか。歴史家の高島幸次先生は、江戸時代から広く共有されていた「有徳思想」が背景にあると見る。「有徳人つまり富裕な人は社会に貢献し、貧者には喜捨をするなど、徳を示すべきだ」という思想です。室町時代にはすでに有徳銭という富裕者への税金や、借金の帳消しを命じる徳政令がありました。金持ちは道徳的にも優れていなければならないという共通理解があり、それが近代以降のダンナ精神へつながっているのでしょう」

現代では理不尽にも感じられるが、これには産業構造の違いも関わっていると高島先生は指摘する。

「多くの人が農業や漁業や林業などの第一次産業に従事していた江戸時代にあっては、やはり商売人の後ろめたさがあったと思います。みんな朝早くから夜遅くまで田畑に出て暑さ寒さを我慢して働いているのに、そうして苦勞して生まれたものを商品として右から左に動かすことで自分たちは利益を得ている。その典型的な職業が両替商です。ただ天秤で金銀銭を測って、その時の相場でもって儲ける。こうした後ろめたさと有徳思想が相まって、ダンナさんたちの行動規範が形づくられてきたのです」



正面玄関の上には、右から左へ「大阪図書館」の文字が刻まれている。ここに住友友純のダンナ精神を仰ぎ見ることができる。

ず予算案は難航。その様子を見ての寄贈で、なんと予算案の3倍。今の金額にして数十億円の巨額である。こうして図書館は大阪が誇り、府民に愛される名建築となった。さらに、基金を設けて将来にわたる図書購入資金をつくった意義も大きかった。

図書館の名前に込められた、あつぱはれダンナ魂秘話。

これには裏話がある。寄贈の内容と規模について、友純は帝国図書館（現国立国会図書館）の館長で国内外の図書館事情に精通した田中稲城に諮問していた。田中による答申「図書館創設

考案」には、図書購入基金の必要性などが海外事例を交えて説かれていた。友純の寄贈は案におおむね沿い、合理的な裏付けを備えていたのだ。ただし、友純が一案に沿わなかったことがある。それが図書館の命名に関する提案だ。

名前に秘められたもの。

答申には「図書館に住友の名称を冠すること」との文言があった。富豪の寄付で建った施設に個人名が冠される

欧米で事例を意識してのことだ。しかし、友純はこれを採用しなかった。開館式での式辞で、寄贈について友純は「住友家が代々大阪に居住し受けてきた恩恵に報いるためであり、府がよく運営管理し、府民がよく利用して、必要ならばさらに拡張すればよい」と述べた。

開館時の正面玄関に「住友図書館」ではなく「大阪図書館」の銘版が掲げられたのは、友純の意思だった。開館後に大阪の蔵書家から貴重図書の寄贈が相次ぎ、企業から図書購入資金の提供があったのも、大阪府民の図書館と認められたからこそだろう。その後、住友家からは再び寄付があり、図書館は左右両翼を増築し、大正



大正11年(1922)に両翼部分を増築。手前は中之島にあった豊国神社の境内。奥には中央公会堂(P4)の屋根が見えている。

11年(1922)に完成して、ほぼ現在の外観を整えた。友純の開館式の式辞にあった「拡張」もこうして現実となった。社会に役立つ寄付のために知恵を使い、名誉を欲せず、言葉には責任を持つ。友純が示したダンナ魂の神髓だ。

大 阪市中央公会堂の父、岩本栄之助が生まれた明治10年（1877）、大阪は西南

の役の特需で湧いていた。藤田伝三郎が製靴工場で財を築いたのもこの年。翌年、北浜に五代友厚らの運動で大阪株式取引所（現大阪取引所）が開業。周囲には有力両替商による銀行設立など近代的な金融の街が形成されつつあった。

彗星の輝きを放った栄之助の短く劇的な生涯は、当時の大阪のみならず熱気を抜きに語れない。栄之助はダンナとしての魂を、ただ一度、公会堂建設に注いだ。大阪文化の殿堂となった名建築もまた、何もかもが桁外れだったあの時代の申し子だった。

栄之助は日露戦争で出征した後、兄が夭折したため父の跡を継ぎ、大阪株式取引所の仲買人となった。次の年、30歳の栄之助は株取引で巨額の利益を得る。32歳の時には渋沢栄一を団長とする渡米実業団に参加。その視察の途中、栄之助は父の訃報を聞く。

欧米の富豪が公共事業や慈善事業に熱心なことに共感し、株で得た金の寄付を思い立ったとの広く知られた栄之助の逸話は、戦争体験や巨万の富、兄と父の死で揺れる自分をタンナ精神の注入で奮い立たせる試みだったのかも知れない。父の遺訓である「国運発展上に資したし」が背中を押してくれた。

DANNA-STORY.2 岩本栄之助と大阪市中央公会堂

戦争と相場の狂乱に立ち向かい、 公会堂建築の傑作を生んだ大決意。



開館直後に発行された名所書絵葉書。
(大阪市立中央図書館蔵)

DANNA-PROFILE 岩本栄之助 (1877~1916)

南船場の両替商「岩本商店」の次男として生まれる。株式界に「デビ」後、全財産をかけて北浜仲買人の窮地を救う相場勝負を決行し、若くして「北浜の恩人」と呼ばれ、全国に名をとどろかせた。学究肌で株への興味は薄かったが、父栄蔵の跡を継いでからは、義を重んじる相場師と私財を投じて塾を開く学問好きの二つの道を生きた。相場で失敗し、道を追詰められた時、100万円の寄付を受けた大阪市が「建設中の公会堂を担保に融資する」と申し出た時も回辞。自決で残した遺書には「全財産を債権者に提供し、岩本妻子のために父の生活費も私用するな」と記した。大正5年（1916）10月27日逝去。辞世の句「その秋を待たで散りゆく紅葉かな」。公会堂の完成は、栄之助の死から2年後の大正7年（1918）10月31日だった。



栄之助が寄付したのは100万円。今の金額で50億を下らない。その意思は公会堂の建設で実を結ぼうとした。しかし、第一世界大戦勃発後の狂乱相場で巨額の損失を負った栄之助は自決。公会堂の完成を目にすることはなかった。

5年以上もの歳月をかけて建設された中央公会堂。定礎式（左）には岩本の後ろ盾であった渋沢栄一も訪れた。



公会堂の設計は一流建築家のコンペ最優秀作を採用し、建築界の重鎮・辰野金吾が手を加えた。3000人収容の大集会室、1000人の立食パーティーが可能なお食堂、天井画のある貴賓室、暖房やエレベーターなど設備は当時の最先端。家具・装飾は三越と高島屋の装飾部に製作を依頼。大阪毎日新聞主催の開館記念大講演会の初日には5000人の聴衆が押し寄せ、椅子に座りきれず床に300畳の畳を敷いて対応した。すべてが熱い時代だった。

大正浪漫の粋を集めた公会堂は昨年、誕生100周年を迎えた。栄之助が生き抜いた足跡は今も地下1階に展示され、語り継がれている。



DANNA-STORY.3 村山龍平と朝日会館

メディア興隆の時代を先駆け、 近代を超えて伝えられる文化。

昭和37年(1962)頃の中之島。中央の朝日会館の東側に朝日ビル、その南側に朝日新聞社、四つ橋筋の向こうには新朝日ビルも見える。写真提供/朝日新聞社

DANNA-PROFILE 村山龍平 (むらやまりゅうへい)

朝日新聞の創業者。伊勢の和歌山藩田丸領の武家出身。大阪に出て、田丸屋の名で貿易商を営み、大阪商法会議所議員を務めるなど青年実業家として活躍した。朝日新聞の事業に専念するようになると、斬新な紙面づくりと先端機械の導入などで部数を伸ばした。明治18年(1885)に中之島に社屋を移転。古美術品の収集にも情熱を傾け、村山コレクションは重要文化財の長谷川等伯「柳橋水車図屏風」(藤原俊成筆「消息左少弁殿死」など名品揃いで知られている。龍平の没後も新聞社の発展とともに周辺に放送局、コンサートホール、オフィスビルホテルなどが集まる都市の文化ゾーンが形成されていた。文化を通しての社会貢献という企業理念は、現代的に形を変えたダンナの心のあらわれでもあるだろう。

大 正14年(1925)の市域拡張で大阪市は人口日本一になり、大阪を名乗った。翌年に開館した朝日会館は、まもなく創業50年を迎えようとしていた朝日新聞社が建設。社長の村山龍平は「新聞社は新聞を発行するだけでなく、広く社会教化のため公共の利益をはかる事業をやらねばならない」と述べている。

朝日新聞社は大阪が発祥の地。都市への人口集中、学校教育の普及、新しい文化への欲求の高まりにともない新聞の発行部数は飛躍的に伸びていた。大正14年の朝日新聞は117万6927部を発行。利益の社会還元は、社会の公器たる新聞社の使命と考えたのである。

龍平は伊勢で武士の家に生まれ、明治維新後に大阪で貿易商を営んだ後、新聞事業に転じた。時代の激変を身もつてくぐり抜けただけに、事業家としての志がある。使命感にもあふれていた。明治18年(1885)の大洪水で社屋が浸水した時、被災で苦しむ大阪市民のために新聞発行を中断しなかった逸話も龍平が目指した企業文化としての社会貢献の一例だろう。その頃、名門の家風あるいは有徳の個人のものだったダンナ文化は、近代化した企業にも移植されつつあった。

朝日会館の新築記念に発行された絵葉書。(大阪市立中央図書館蔵)



朝日会館は音楽・文学・美術三位一体の芸術文化の殿堂として、中之島の渡辺橋のもとに建てられた。工費80万円余をかけたドイツ近世式建築は黒壁に金縁窓の外観で人目を引き、4、6階が約1600席の多目的ホールで、当時広まっていた洋楽愛好の声に応え、国内外の著名演奏家、オーケストラ、歌劇団の公演を積極的に開いた。その後、会館は大阪の洋楽の拠点となる。

昭和37年(1962)に閉館した朝日会館のホール機能を担っていたのがフェスティバルホールだ。昭和33年(1958)の開館当時、東洋一の音楽ホールと言われた。設計には朝日新聞社社長の村山長峯の構想が反映されたという。それは創業者の村山家の人々の意思であり、社風にも受け継がれている。中之島フェスティバルタワー・ウェストに昨年生まれた中之島香雪美術館もそのしるしだ。「香雪」とは村山龍平の号。展示の中心は龍平が収集した美術コレクションである。

朝日新聞社は大阪が発祥の地。都市への人口集中、学校教育の普及、新しい文化への欲求の高まりにともない新聞の発行部数は飛躍的に伸びていた。大正14年の朝日新聞は117万6927部を発行。利益の社会還元は、社会の公器たる新聞社の使命と考えたのである。

「サントリー文化財団」をご存じだろうか。学芸と地域、二つの文化を大阪・堂島から強力にサポートし、多彩な人材や活動を世に紹介してきた。このほど40周年を迎えた財団には、「最後の**大目那さん**」と呼ばれたサントリー2代目社長・佐治敬三の哲学が今も生きている。

取材文／松本創（本誌）

教養人・佐治敬三の哲学。

サントリーを「生活文化企業」に育てた佐治敬三の文化芸術好きはよく知られている。中之島にあった大阪帝国大学理学部に学んだ化学の徒であり、学術研究への理解も深かった。

終戦直後、前身の寿屋に入社すると、創業者で、父親の島井信治郎を説得して「食品化学研究所」を設立。さらに家庭向け科学雑誌「ホームサイエンス」を創刊する。洋画家の小磯良平が表紙を描き、内容もかなりレベルが高かったが、売れなかつた。そのため、よく父と衝突したと、作家の開高健が書いている。

信治郎と敬三はしばしば昂奮して議論した。

「うちはウイスキー屋でっせ！」
「ウイスキーだけが時代やないです！」
「うちは出版社やおまへんで！」
「これはええ雑誌です！」
「あきまへん！」
「ええもんです！」

「サントリー文化財団」設立発表



今から40年前、昭和54年（1979）2月1日の設立記者発表。出席者は左から開高健、佐治敬三、山崎正和、高坂正堯の各氏。

句もたしなみ、研究者や文化人と深く交流した。どんな分野にも興味を持ち、常に若い才能に目を配った。経営者である前に、大正教養主義を体現した「教養人」だったと多くの人が語っている。



と佐治敬三の哲学。

会への貢献にも役立つ「利益三分主義」を唱えていましたが、佐治は特に芸術文化による社会還元を志向しました。経済が高度成長し科学万能の趨勢が強まる中で、心の豊かさを育むことが必要と考えたからでしょう」と、サントリー文化財団の尾崎勝吉専務理事は言う。

「学芸」と「地域」を二本柱に。

昭和54年（1979）2月1日。サントリーの創業80周年を記念して佐治は財団を設立し、自ら理事長に就いた。若い頃からの同志である開高をはじめ、劇作家の山崎正和、国際政治学者の高坂正堯、国立民族学博物館館長の梅棹忠夫ら、大阪・関西に縁のあるそうそうたる文化人が役員に顔を揃えた。

事業の柱は二つ。一つは学芸文化の振興。サントリー学芸賞を創設し、「政治・経済」「芸術・文学」「社会・風俗」「思想・歴史」の4分野ですぐれた研究を表彰するのをはじめ、意欲的な調査研究や海外出版への助成を行った。

「当時から研究の世界は専門分野の細分化が進み、タコソボ化していると言われていました。それを打ち破る学際的で独創性ある研究が対象です。最近では30代の若手を中心ですね」と尾崎専務理事。

もう一つ、柱となるのが地域文化の振興。全国祭りの行事、伝統工芸や食文化から、新しい芸術やまちづくりの活動までを対象に、サントリー地域文化賞を贈ってきた。ここには、佐治が終生抱いた大阪への深い愛着が関係している。「設立当時、佐治は関西経済連合会の副会長。東京一極集中が進み、これからの大阪をどうす



昨年の地域文化賞(上)と学芸賞(下)の授賞式の様子。サントリー文化財団にとっての2本柱だ。

るんだと盛んに議論していました。誰もが東京を向き、社会が画一化していくのが嫌だったんでしょう。そういう風潮への抵抗、プロテストだったと思います」とは、財団の前専務理事を務め、佐治の人柄をよく知る今井渉顧問の弁である。

中央に対する「地方」ではなく、それぞれの土地に息づく「地域文化」。これを支援し、次世代へ手渡していくことが重要だと佐治は考えた。後年のインタビューで、こう語っている。

「(文化とは) 土地に深く根ざしたもので、それぞれの土地の味がする。その土地で味わうのが一番いい。(略) 私は受賞者の方々と地元でお会いすることが時々ありますけれど、地元ではその土地の匂いをプンプンさせて、皆さん生き生きしてらっしゃる」

今年2月1日、財団設立40周年の記者会見が中之島のリーガロイヤルホテル大阪で開かれた。4年前と同じ日、同じ場所である。

〈知〉をつなぐ、ひらく、たのしむ。

そこで発表された新たなコンセプトは、「〈知〉をつなぐ、〈知〉をひらく、〈知〉をたのしむ」。専門分野や職業の壁を取り払い、研究や言論の場を社会に開き、「目から鱗が落ちるような」知的経験の楽しさを提供することを目指す、という。

具体的には、まず「学芸ライブ」。異なる分野の研究者が予定調和なしに議論するトークイベントを大阪と東京で行う。『役に立って何? モンゴル×超ひも理論×シロアリ』『語る』ということ、「わかる」ということ、言語・AI×数学」といったテーマを見ても、話がどこへ展開するか想像もつかない。

さらに、梅田の蔦屋書店などを会場に、著者がやわらかい言葉で自分の専門分野を語る「プレミアム・ミニトーク」。地域文化の未来を考える「地域文化フォーラム」も全国5ヶ所で開催する。

多様な視点や価値観が交わり、新たなものを生み出すことこそ文化の醍醐味と考えた佐治の理念を具現化する試みは頼もしいが、一方で、東京一極集中は止まらず、研究や文化への支援も細まっている現状がある。今あえて、大阪から文化を発信する意図は何か。



サントリー文化財団

今年で40周年!

この問いに、佐治の甥で、サントリー副会長でもある鳥井信吾理事長はこう答えた。

「バブル崩壊後、企業経営がしんどくなり、企業は守りに入った。その結果、東京への一極集中がさらに進んだ。しかし、時代はずっと一緒ではない。鳥井信治郎や佐治の共通点は『見て見ぬふりをしない』ことだった。平成も終わる今、積極的にやる時期に来ている」

元大阪大学総長で、財団の副理事長を務める鷺田清一氏は、かつての大阪が誇った市民的気風に期待を寄せる。

「大事なことはお上に任さないというのが大阪の伝統。阪大もそうですが、橋や公会堂や図書館も、市民の寄付で、自前でつくってきた。大阪の企業は本業とは関係ない研究や調査を支援してきた。そんなすごい伝統があるんです」

佐治の死後、発行された追悼文集に、ある料亭の女将が思い出話を寄せている。いつものように生粋の大阪弁で芸妓と遊ぶ佐治の姿を見て、作家の司馬遼太郎が、しみじみ言ったそうだ。

「ナア女将さん、船場の旦那は、佐治さんがホンマに最後やろナア」

そのダンナ精神は、大阪に今後も生き続けることができるだろうか。



40周年記念事業の記者発表。左から尾崎勝吉専務理事、鳥井信吾理事長、鷺田清一副理事長。

昭和57年（1982）、中之島に開館した東洋陶磁美術館は、住友グループ21社から寄贈された安宅コレクション約1000点を中心として大阪市が設立した。国宝・重要文化財が多く、開館後も貴重なコレクションの寄贈が続いて、東洋陶磁をテーマに世界第一級の質と量を誇っている。

美術館の誕生には多くの人々が力を尽くした。最初に登場するのは安宅コレクションの収集者、安宅英一だ。英一は船場にあった総合商社・安宅産業の会長を務めた。文化事業として美術品を集めた。選択基準は2つ。「その分野において比類ない第一級品であること」「傷のあるなしに関わらず品格の高いもの」だった。購入後に重要文化財の指定を受けた作品が多いのは、英一がいかに目利きのコレクターだったかの証明だ。

その安宅産業が昭和48年（1973）のオイルショックを機に、やがて経営危機に陥ると、コレクションの一部だった速水御舟の絵画を売却。東洋陶磁1000点の行方は大きな社会的関心を呼び、コレクションの所有権を清算会社に移してからは、国会でも論議されるほどの問題になった。この時、管理責任者となっていたのが住友銀行だ。

昭和55年（1980）、住友銀行の主導で住友グループ21社は、東洋陶磁コレクションの寄贈を大阪市に申し出

DANNA-STORY.4 安宅・住友と大阪市立東洋陶磁美術館

企業から企業へ、 現代のダンナ衆が守った遺産。



上／平成11年(1999)に新館を増築した際の様子。右／開館時のテープカットで、左から2番目は当時の大島靖大阪市長。

東洋陶磁美術館に集う 名コレクションの数々。

約7,000点にのぼる館蔵品のおよそ9割を寄贈が占める。柱となる安宅コレクションは中国陶磁、韓国陶磁、ベトナム陶磁、日本陶磁、中国工芸、韓国工芸、日本工芸など総数約1,000点。国宝の「油滴天目茶碗」「飛青磁花生」をはじめ重要文化財に指定されたほとんどがこれに含まれる。

そのほか、日本に居住した元外交官・経済学者で、貿易会社も経営した李秉昌の韓国陶磁コレクションも世界第一級の水準。浜田庄司の作品による堀尾コレクション、中国陶磁の入江コレクションなど、厳選された名品揃い。安宅コレクションに引き寄せられるように陶磁美術の粋が集められている。

左／油滴天目茶碗(国宝)
右／飛青磁花生(国宝)
共に安宅コレクション



住友家の事業拡大が生んだ住友グループにも、友純（P2）の例を出すまでもなく文化愛好と社会貢献をめざすDNAは継がれているだろう。素焼きタイル張りの外観が美しい東洋陶磁美術館は、大阪のダンナ衆の心意気が打ち立てたモニュメントなのだ。

21社が総額15.2億円にのぼる寄付金を大阪市文化振興基金に積み立て、満額になった時点で、それを大阪市のコレクションの購入費とし、積み立てた利息を運用資金として東洋陶磁美術館を建設した。

現代的な手順を踏んでの美術館誕生の過程で、ダンナ精神のバトンは個人から企業に手渡された。安宅産業は倒産し、昭和52年（1977）伊藤忠商事に合併吸収されたが、英一が心血を注いで集めた文化遺産は散逸を免れ、広く公開されることになった。



◎今月の授業

【大阪24区】

2019年4月講座

「大阪24区物語」 ②フロントエリア編

講師 / 本渡 章 (作家)

生まれも個性も違うのに、
知らないことが多すぎる？
「区」が語る24の
大阪史をひもとく。

大阪市内を分ける24の「区」は、市民にとっては一番身近な存在のはず。にもかかわらず、意外に知らないことが多い。本来はそれぞれの区ごとの歴史があり、なりたちにも理由がある。

前回の「上町台地編」では、街の「背骨」にあたる上町台地とその東西9区を取り上げ、古代から現代につながる生い立ちを見渡した。シリーズの2回目となる今回は淀川・大阪湾から望む10区がテーマ。川と海を背景に島と道が交差して、それぞれの区の誕生のストーリーが見えてくる。一つひとつの区の変遷が、そこに住む人々の足元の歴史を教えてくれる。

「区」の歴史を
知っていますか？

バイエリア・
アイランズ
(島のフロンティア)

淀川リバーサイド
(水上のハイウェイ)

サンライズ・
ロード
(朝日の昇る道)

ノース・
アイランズ
(島の生長点)



◎今月の1枚

「大大阪明細地図」

(大阪市立中央図書館蔵)

大正14年(1925)発行。市域拡張で人口・面積ともに日本一になり、大大阪を名乗った年を象徴する地図。区の数も4から13に一気に増えた。地図も見応えありだが、市域拡張の範囲と各区の人口・面積をあらわすグラフにも注目。現在の区とは異なる顔を見せる区が多いのに興味をそられる。

募集要項	「大阪24区物語 ②フロントエリア編」	お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。
	日時 / 2019年4月15日(月)	〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号
	7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~)	「ナカノシマ大学4月講座」受付係 FAX.06-6484-9678
	会場 / 大阪市中央公会堂 小集会室	※先着順で受付後、3月20日前後より受講票をお送りします。
	受講料 / 2,500円	※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。
定員 / 80名	※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。	
主催 / ナカノシマ大学事務局	※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。	

ナカノシマ大学の最新情報は

<https://nakanoshima-daigaku.net/>

ケータイや
スマホからは
こちら→



お問い合わせ
☎06-6484-9677
(ナカノシマ大学事務局)

三月席のご案内

申込受付中

●お題(漫画家と落語)

「ち多福来い来い」

今回の天神寄席は落語案内のコミックエッセイ『お多福来い来い』(小学館)の著者・細川紹々さんがゲストに登場。というわけで、今月のネタは本の中で描かれているものばかり。かつてはネガティブクイーンだったという細川さんだが、落語に出てくる「愛すべきダメ人間」たちを知り、幸せに生きるヒントを学んだのだとか。落語の新しい楽しみ方が見えてくるかもしれない。

落語/桂紋四郎(池田の猪買い)

笑福亭智之介(七度狐)

露の団姫(松山鏡)

笑福亭松喬(後生鰻)

桂春團治(まめだ)

冊談/てんてんの落語案内

ゲスト/細川紹々(漫画家)

高島幸次(大阪大学招聘教授)

笑福亭松喬

コミックエッセイが大人気の細川紹々さん。マンガでは繁昌亭で観たネタが紹介されているのだとか。

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中!

開催日/2019年3月25日(月)

開演時間/6:30PM(開場6:00PM)/受付開始5:45PM)

受講料/2300円(通常)・前売2500円/当日3000円)

お支払い方法/当日(5:45PM)、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP9を参照してください。



露の団姫さんの「松山鏡」は、鏡というものがまだよく知られていなかった時代の嘸。

トリは桂春團治師匠。ほっこりとして、やがて切ない人情嘸「まめだ」は得意ネタだ。

イラスト/フジワラトモコ

一月席のこま

御来場御礼

冊談/「信長・秀吉・家康」

旭堂南海(上方講談師)

高島幸次 桂春團治

高 今日がゲストに来ていただく予定だった歴史小説家の木下晶輝さんがインフルエンザでお休みなので、代役を講談師の旭堂南海さんにお願しました。今回のお題が天人だったので、戦国武将が登場する落語を集めてみたのですが、本当に少ないんですよ。春 やっぱり戦国武将を笑いのネタにするのは難しいんかな。

南 戦国武将を扱った落語は、実は講談からとられたものが多いんです。例えば、今日かかったネタ

高 意図的に選んでいるんですよ。南 講談でも上方はやはり笑いの要素が強くて、『難波戦記』の「家康の最期」というお話では、平野に陣を移した徳川家康が用を足している、仕掛けられた地雷にまんまとやられ、家来と逃げ延びる場面があります。上方ではそこは大便なのですが、江戸では小便をしていたと語られています。

高 やっぱり東京は上品なんです、師匠。春 いやいや、誰が下品やねん。



天満天神繁昌亭



建仁寺 両足院

桃山時代の絵師・長谷川等伯筆「水辺童子図」や「竹林七賢図屏風」が特別公開される。

期間／3月18日(月)まで 公開時間
／10:00AM～4:30PM(4:00PM受
付終了) 拝観料／600円
問い合わせ ☎075-213-1717
(京都市観光協会)

「日本画のふるさと」京都を訪ねよう。

大阪—京都—プレミアムな旅だより
春
お寺と共に絵画を鑑賞

冬の京都の楽しみ方を提案する「京都の冬の旅」。今年は2019年9月に日本で初開催される国際博物館会議 京都大会 (COM KYOTO 2019) に先駆けて、「京都にみる日本の絵画(近世から現代)」をテーマに選びました。

京都で活躍した絵師や日本画家にサポートを当て、15の寺院の非公開文化財を特別公開。狩野派とそのライバルと言われた長谷川等伯の作品を中心に、多くの作品をご紹介します。

日本画は「昔の絵」だと思われがちですが、建仁寺 両足院では現代の道釈画家・七類堂天谿氏が5年をかけて描いた方丈障壁画「教外別傳図」も初公開。「寺院は何のために絵師に描かせたのか」がわかると、絵がとて身近になります。ぜひ両足院に常駐するガイドから、副住職と画家の思いを聞いてみてください。

また、障壁画は建築と一体となって、空間を構成する大切な一つの要素。絵には宗教的なメッセージが込められていることもあります。境内に足を踏み入れた瞬間から、絵にたどり着くまでのプロセスも含めて、一つひとつの作品を味わっていただきたいと思えます。

もうすぐ始まります! 春の特別公開 霊鑑寺 ～椿の尼門跡寺院「谷の御所」～



椿の寺として知られる霊鑑寺は、承応3年(1654)後水尾天皇の皇女を開基として創建され、歴代皇女が住職を務めた尼門跡寺院。広い境内には100種以上の椿が植えられ、3月下旬から色とりどりに咲き乱れる。

期間／3月21日(木・祝)～4月7日(日)
公開時間／10:00AM～4:30PM(4:00PM受付終了) 拝観料／大人600円 小学生300円
交通アクセス／「出町柳駅」から17・203系統の市バス、または「神宮丸太町駅」から93・204系統の市バスで「真如堂前」下車徒歩7分
問い合わせ ☎075-213-1717(京都市観光協会)



建仁寺 正伝永源院

狩野山楽筆の鮮やかな金碧障壁画「蓮鷲図」や「鍾道図」、元首相・細川護熙氏筆の障壁画などが特別展示される。

期間／3月18日(月)まで 公開時間
／10:00AM～4:30PM(4:00PM受
付終了) 拝観料／600円
問い合わせ ☎075-213-1717
(京都市観光協会)



なぜ寺院は絵を描かせたのか?
わかりやすくガイドします!



公益社団法人
京都市観光協会
番匠宏明さん

プレミアムカーに乗って、豊かな旅を

ゆったりくつろげる指定席で、快適な時間をお過ごしください。

運転区間 淀屋橋(大阪)⇄出町柳(京都) 特急停車駅(淀屋橋・北浜・天満橋・京橋・枚方市・樟葉・中書島・丹波橋・七条・祇園四条・三条・出町柳)

料金 400円・500円 (別途乗車券が必要です。なお、その他の車両は従来どおり乗車券のみでご乗車いただけます。)

予約方法 予約専用サイト「プレミアムカークラブ」または特急停車駅のインフォステーション等で「プレミアムカー券」をお買い求めください。

詳しくは <https://www.keihan.co.jp/traffic/premiumcar/> 京阪電車お客様センター ☎06-6945-4560(9時～19時※土・日・祝日は17時まで)

京阪特急 座席指定 | 特別車両
PREMIUM CAR





トウミン月報

2019年3月1日発行

なにわ橋駅コンサートが コンサート会場に！ ミュージックフェスタ

昨年ザ・シンフォニーホールでの第29回定期演奏会の様子。

アートエリアB1開館/ 京阪中之島線開業10周年記念事業 ステーションミュージックフェスタ

会場／アートエリアB1
日時／3月27日(水)5:30PM~6:30PM(開場5:00PM)
出演／東海大学付属大阪仰星高等学校吹奏楽部
定員／200名(参加無料/入退場自由)
問い合わせ ☎06-6945-4560
(京阪電車お客さまセンター ※9:00AM~7:00PM、
土・日・祝日は5:00PMまで)

京阪電車なにわ橋駅構内地下1階のアートエリアB1では、毎年、大阪や京都の高校の吹奏楽部が主体となってコンサートを展開する「ステーションミュージックフェスタ」を開催している。今回はアートエリアB1開館と京阪中之島線開業10周年を記念した特別企画。関西吹奏楽コンクールで2011年から毎年金賞を受賞しているという輝かしい実績を持つ東海大付属仰星高校吹奏楽部による演奏会を予定している。

年一回の定期演奏会は大人数で、地域でのさまざまなイベントでも引張りだこの仰星高校吹奏楽部。駅構内というちょっと変わったロケーションで、軽やかな吹奏楽の音色を間近で聞くことができる。

行政の拠点や大企業が密集し、都市交通の要でもある中之島では、数年前から「エリア防災」のための取り組みが進められてきた。そんな中、大都市にとって必要な防災のあり方について考えるためのシンポジウムが開催される。

地球科学者として世界的に知られる巽好幸さんによる基調講演をはじめ、行政や民間での防災の取り組みを紹介する。地元地権者が構成される中之島まちみらい協議会では、今年度は災害時情報伝達訓練等を実施するなど、日頃から防災活動に取り組んでおり、実務者からの話題提供やディスカッションなど、グローバルな視点と天

災の現状と展望 産官学ネットワークの共創に向けて

2019年3月4日(月)

サイエンスアゴラ in 大阪 シンポジウム

産官学ネットワークの共創に向けて

世界一の地震・火山大国に暮らすということ

巽好幸(神戸大学 海洋底探査センター 教授/センター長)

大阪の高潮防衛施設操作のタイムライン

川上卓(大阪府都市整備部 河川室河川整備課 参事)

大阪都心ビジネス地区中之島のエリア防災備災の取組み

岸田文夫(中之島まちみらい協議会 代表幹事)

災害時の支え合い：国際・多文化共生×地域資源(寺社・自治会)×アプリ

稲場圭信(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

ディスカッション「都市防災備災の産官学ネットワークの共創」

登壇者：巽好幸、川上卓、岸田文夫、稲場圭信

モデレーター：木ノ下智恵子(大阪大学共創機構社会学共創本部 准教授)

総合司会：寺田健太郎(大阪大学副理事/理学研究科 教授)



都市における防災について 考えるシンポジウム

阪における実践の両面から都市防災を捉える試みだ。

帰宅難民といった言葉が浸透してきたが、災害時に身を守る方法は常に意識しておかなければならないこと。単なるハード面の問題でも、行政に任せなければいけないだけの問題でもない。エリア全体が広域避難場所に指定されている中之島だからこそ、島民全員が抱えるテーマとして自覚するきっかけにしたい。

サイエンスアゴラin大阪 シンポジウム

都市防災備災の現状と展望～産官学ネットワークの共創に向けて～

- 基調講演「世界一の地震・火山大国に暮らすということ」
巽好幸(神戸大学 海洋底探査センター 教授/センター長)
- 話題提供1「大阪の高潮防衛施設操作のタイムライン」
川上卓(大阪府都市整備部 河川室河川整備課 参事)
- 話題提供2「大阪都心ビジネス地区中之島のエリア防災備災の取組み」
岸田文夫(中之島まちみらい協議会 代表幹事)
- 話題提供3「災害時の支え合い：国際・多文化共生×地域資源(寺社・自治会)×アプリ」
稲場圭信(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
- ディスカッション「都市防災備災の産官学ネットワークの共創」
登壇者：巽好幸、川上卓、岸田文夫、稲場圭信
モデレーター：木ノ下智恵子(大阪大学共創機構社会学共創本部 准教授)
総合司会：寺田健太郎(大阪大学副理事/理学研究科 教授)

日時／3月4日(月)6:30PM~8:45PM(受付・開場6:00PM~)
会場／大阪市中央公会堂 小集会室
定員／130名(要事前申込・先着順)
参加費／無料
申し込み／WEB、メール、電話のいずれかにて。
http://artarea-b1.jp/
mail@artarea-b1.jp(件名に3/4サイエンスアゴラ参加申込と明記)
問い合わせ／ ☎06-6226-4006(12:00PM~7:00PM、月曜日・祝日の場合は翌日)

大阪水上バス・岸田俊徳の

水辺で会いましょう



大阪水上バス株式会社企画宣伝部長。ミナミの劇場プロデューサーを経て、関西・大阪21世紀協会にて大阪の文化事業に関わる。2010年より現職。

「桜の季節を感じる。」

桜の季節はなぜかしら慌ただしいですよね。卒業、入学、入社…毎年自分に関わる行事ではないのですが、そわそわ落ち着きなく日々が過ぎてしまう感じです。年末年始よりそう感じるのは、1年で一番川沿いがにぎやかになる春を楽しみにしてしまふ、観光船スタッフの定めなんではないか。



近頃はお客自身もSNSで情報をあげようと携帯で写真を撮る人が多くなっています。船員も声をかけられ一緒に記念写真という目にもなります。逆に寂しいのが、演出に凝りすぎて桜の枝を折ったり、花吹雪ほしさに花を故意に散らす方。これは止めましょう。

おすすめする桜の楽しみ方は、ただゆっくり眺めること。ゆっくり桜並木の下を歩くだけで幸せな気分になれます。そしてもちろん、川沿いの桜を船内で愛でることができる「桜クルーズ」です。大小さまざまな観光船が港に溢れますが、大阪の観光船らしい観光船と言えばアクアライナーです。暖かい室内で冷たいビールを片手に花見、なんていうのもオツかもしれませんね。



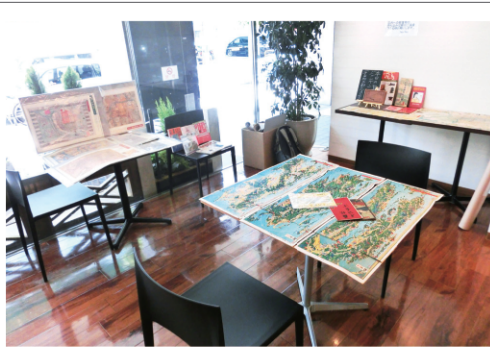
大阪水上バス 桜

☎0570-035-551

こころまちつくり
KEIHAN
大阪水上バス

<http://suiji-bus.osaka/>

本渡章さんの古地図サロン パリジョンマップアップして今年も開催



「日本一気楽に古地図を楽しむ場所」を目指して、昨年は

ほぼ毎月開催された作家の本渡章さんによる古地図サロン。1年間限定の予定だったが、

「続けてほしい」との声に応じて3月より再開される。会場は今年も御堂筋の名建築である大阪ガスビル1階南側にあるカ



フェ「feufeu」の一角にて。新しいサロンでは、主に江戸時代から近代に作成された古地図の原図公開はもちろん、マスターをつとめる本渡章さんによる30分トーク「古地図のここが面白い！」が新たに



本渡章の古地図サロン

2019年は奇数月の第4金曜日(9月のみ第3金曜日)に開催。各回とも4:00PM~5:00PMの間に約30分のトーク(古地図にまつわる本渡章さんのおしゃべり)を予定。入退場は自由。
日程/3月22日(金)、5月24日(金)、7月26日(金)、9月20日(金)、11月22日(金)。
時間/3:00PM~6:00PM
会場/大阪ガスビル1階 カフェ「feufeu」内
参加費/無料(カフェでの1オーダーが必要)

加わる。再開初回となる3月22日(金)では、大阪の「区」がテーマ。4区から13区↓15区↓22区と変貌していった大阪市の姿を古地図で一瞥。ナカノシマ大学で進行中の「大阪24区物語」(P9)と合わせて楽しもう。金曜日の午後、古地図とともに心を遊ばせるひとときを。

たい話をしようという趣向で、第1回のゲストは弱冠19歳の現役大学生にして、第31回小説すばる新人賞を受賞した増島拓哉さん。受賞作の『闇夜の底で踊れ』(集英社)は、35歳で無職のパチンコ依存症の元暴力団員が主人公というハードボイルドな作品だ。

ジュンク堂書店大阪本店の20周年記念企画がスタート!

ジュンク堂書店大阪本店20周年記念企画「江弘毅の今、会ったかなあかん人」第1回ゲスト/増島拓哉(小説家)日時/3月16日(土)2:00PM~会場/ジュンク堂書店大阪本店参加方法/ジュンク堂書店大阪本店にて『闇夜の底で踊れ』を購入し、カウンターにて参加申し込みを。問い合わせ☎06-4799-1090



撮影/大槻志穂

第1回を皮切りに、2019年度中に4回の開催が予定されている。この他にもさまざまな20周年企画を構想中。



「クバケーションのある人生」 旅先で暮らすように休暇を楽しんでいただけます

ヒルトンやコンラッドなどのホテルを含むヒルトングループは、現在15のブランドがあります。そのうち14はホテル業で、唯一弊社だけが不動産業となります。取り扱っているのは、ハワイやラスベガス、フロリダなどのリゾート地にあるコンドミニアム型の別荘です。普通に購入するととても高額ですので、1週間単位でオーナーとして所有する「タイムシェア」というシステムでご購入いただけます。コンドミニアムのタイプは、ご自身のバケーションスタイルに合わせて立地や部屋の広さ、価格を考慮してお選びいただけます。お部屋は一般のホテルよりかなり広々としていて、キッチンや生活に必要な家電も揃っていますので、旅先で暮らすように休暇を楽しむことができます。税金を含む年間の管理料はありますが、宿泊料などは一切ございません。



ハワイのオアフ島にあるザ・グランド・アイランド・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ。部屋からはワイキキの美しい海外線の眺めを満喫できる。

また、ご購入いただいた物件に応じたポイントを使って、タイプの違うお部屋の宿泊も可能です。例えば、1LDKの

お部屋オーナーの方でも、ご両親とご旅行の場合はポイントを使って広いお部屋

つております。旅行に行けない一番の理由は、家族の時間が合わないこと。しかし、年に1週間、ハワイのコンドミニアムが使えるのであれば、「せっかくだから行こう」という動機づけになります。



タイムシェアという新しいリゾートをご提案。

「Hilton Grand Vacations」 バイス プレジデント オブ アジア セールス 石井陽士さん

に変更することもできますし、世界で展開する直営リゾートやヒルトングループのホテルにも宿泊可能です。

私もがご提案するのは「バケーションのある人生」。旅行になかなか行けないという方にこそ、ぜひご紹介したいと思います

6万組を超し、全世界で30万組を超える多くの方々に会員としてお楽しみいただいております。

フェスティバルホールの隣にブリスを設けていますので、ご興味のある方は、ぜひお立ち寄りください。

Information from Hilton Grand Vacations [中之島フェスティバルタワー2階]

世界の著名な行楽地や主要都市にてタイムシェア・リゾートの企画・開発・販売・運営を行う。タイムシェア・リゾートとは、1年を52週に分けて、高級コンドミニアムスタイルの部屋を1週間単位で所有する権利を手頃な値段で購入するシステム。フェスティバルタワー・ウエストの28階には大阪バケーション・ギャラリーもあり、海外リゾートが体感できる魅力的なスペースも備わっている。☎0120-805-824 9:00AM~7:00PM(土・日・祝日は6:00PMまで)



祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング



島民MAP



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪グループ 京阪電車主要駅/京阪特急プレミアムカー/ホテル京阪 淀屋橋/ホテル京阪 天満橋/ホテル京阪 京橋 グランド/パナソニック京阪天満橋/京阪シティモール/京阪モール
- 大阪府北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/大阪高級内ブックセンター/紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店/ジューク堂書店 大阪本店・天満橋店/MARUZEN&ジューク堂書店 梅田店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/朝日放送テレビ・ラジオ/朝日放送テレビ・ラジオ/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪梅田サテライト/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITYNAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/適塾/ドーチカ/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など] アンドール 本町本店/上町貸自転車/ Ultra 2nd/江戸前惣料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/エルマーズグリーン コーヒーカウンター/大西洋服店/OOO(オーオー)/カセッタ/喫茶センターロ/喫茶SAWA/グランドスト中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/シアトルベストコーヒー新聞電ビル店/じろう亭/Girond's JR/心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまが鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/パストラーレ/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/フレムハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 旭屋書店 なんばCITY店/紀伊國屋書店 京橋店/喜久屋書店 阿倍野店/ジューク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループ書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪科学技術館/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立中之島文化芸術創造センター/川口基督教会 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフツ/欧風食堂 ミリパル/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/カルチャーカフェ上方/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/MANGUEIRIA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂/Books 呼文堂/水嶋書房 千早はるモル店/大阪狹山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画広報・学連携事務局/大阪大学 21世紀構想館/大阪大学本部/大阪府立中央図書館/摂南大学 地域連携センター/野村呼文堂/郵政考古学会/ゆたっらんこ/連携考房 童子
- 大阪府以外 ジューク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンパソン/百歳/奈良県立図書館情報館/龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーズ(吉祥寺)/B&B(北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(東小金井)/かもめブックス(新宿)

◎バックナンバーが見られます。

最新号の発行と同時に、ひとつ前の号がweb上で閲覧できるようになります。創刊号から見た方はこちらから、<https://nakanoshima-daigaku.net/about/tomin/>

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 ミュージアムズ・トピックス

ニューオープンにリニューアルが続き、どんどん充実度がアップしている中之島周辺のミュージアムの最新情報をまとめてお届けしよう。

●『月刊島民』vol.129は2019年4月1日発行です!

編集・発行人/大迫力(株式会社140B)
 編集・発行/月刊島民プレス
 若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
 松本 創 道田恵理子 山國恭子(株式会社140B)
 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号
 TEL.06-6484-9677 FAX.06-6484-9678
 制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL JR)
 デザイン/山崎慎太郎
 表紙イラスト/奈路道程
 印刷/佐川印刷株式会社

新しい
出会いも、
楽しみです。

ザ・サウザンド キョウト
(京阪電車 七条駅下車 / JR京都駅下車)
三条けい子 (おけいはん)

月刊島民 中七編 128号 2019年3月7日発行 編集・発行人 / 大迫力(140B) 編集・発行 / 月刊島民プレス 〒5300047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号 定価0円 Printed in Japan



1/29(火) OPEN!
THE THOUSAND KYOTO
真新しいホテルでひと息
【ザ・サウザンド キョウト】



京都タワーが映える庭園
【渉成園】(東本願寺飛地境内)



京の名品にひたる一服
【カイカドウカフェ】



ムードもコスバも抜群
【オクターヴァ】
(ホテル京阪 京都 グランデ 2F)



野菜の味わい方革命
【濱野野菜イズムズ】



京都歩き道しるべ
【京都タワー・京都タワーサンド】

いろいろな京を歩いて満喫!
七条駅(京阪電車) / 京都駅エリア

おけいはん発
かいわい
京都駅
おさんぽツアー

京阪で、おこしやす。

<https://www.okeihan.net>

おけいはん人。
京阪のる人。